

## 1. 計画策定の背景

本町では、平成31年（2019年）3月に「山田町地域公共交通網形成計画」を策定し、東日本大震災からの復旧・復興による新しいまちづくりに併せた公共交通ネットワーク構築のために取り組んできた。

しかし、人口減少や少子高齢化の急速な進行により公共交通利用者は減少が見込まれる。さらに、燃料費高騰による運行コストの増大や運転士不足により地域公共交通を取り巻く状況は厳しさを増している。

このような状況を踏まえ、社会情勢の変化に対応し、将来を見据えた持続可能な公共交通ネットワークを実現するためのマスタープランとして、「地域公共交通の活性化および再生に関する法律（平成19年制定、令和2年11月改正）」に基づき「山田町地域公共交通計画」を策定する。

## 2. 計画の区域・期間

- 計画の区域：山田町全域
- 計画の期間：令和6年度から令和10年度の5年間

## 3. 地域の概況

- 町の市街地は国道45号および鉄道駅周辺の平地部に広がっている。
- 沿岸部には平地が少なく、傾斜地に集落が点在しているため、徒歩や自転車の移動は高齢になると負担が大きい。
- 病院や店舗、金融機関等の生活関連施設は、山田地区に集中して立地
- 令和5年7月に道の駅やまだ「おいすた」が開業
- 人口は震災により減少が加速し、その後も変わらず減少傾向

## 4. 公共交通の課題

本町の公共交通の特性や町民アンケート結果等から、公共交通の課題は以下の5点に整理される。

- 課題1 まちの公共交通への関心を高め、意識の向上を図る
- 課題2 交通不便地域（交通空白地）の解消
- 課題3 持続可能な交通ネットワークの構築
- 課題4 交通事業者との一体的な取り組みの推進
- 課題5 高齢化社会に対応したやさしい交通の実現

## 5. 山田町地域公共交通計画

上位計画で描くまちの将来像や地域の課題を踏まえ、本計画での基本理念および目指す公共交通ネットワークを実現するための基本目標・戦略を以下のように定める。

### 基本理念

人をつなぐ 未来へつなぐ 公共交通

### 基本目標・戦略

#### 基本目標1 公共交通を『知り』、公共交通を考える

- 戦略1 公共交通と接する機会の創出
- 戦略2 わかりやすい公共交通・料金体系の構築
- 戦略3 新たなモビリティ・施策の導入

#### 基本目標2 公共交通を『使い』、公共交通を生活の一部に取り入れる

- 戦略4 生活に密着した公共交通の利用促進策の充実
- 戦略5 多様な交通資源の活用によるサービスの最適化

#### 基本目標3 公共交通を『守り』、公共交通を維持する

- 戦略6 公共交通を維持する連携体制の構築

## 6. 基本目標に対する事業概要および評価指標

目指す公共交通ネットワークの実現に向けた事業と、目標の達成状況を明確化するための評価指標を以下のように定める。

### 基本目標1 公共交通を『知り』、公共交通を考える

#### 戦略1 公共交通と接する機会の創出

- 事業1 総合的な交通情報の提供  
公共交通総合マップ・時刻表の作成など
- 事業2 公共交通利用の意識醸成  
乗車体験会や出前講座の開催など

#### 戦略2 わかりやすい公共交通・料金体系の構築

- 事業3 乗り継ぎ利便性の向上  
移動ニーズに対応したダイヤ編成など
- 事業4 わかりやすい料金体系の設定  
わかりやすい料金体系の維持など

#### 戦略3 新たなモビリティ・施策の導入

- 事業5 新たなモビリティの導入・交通DXの推進  
新たなモビリティや交通DXに関する情報収集や導入の必要性の検証など
- 事業6 ICカード・電子マネーの導入推進  
キャッシュレス決済の導入推進など

### 基本目標2 公共交通を『使い』、公共交通を生活の一部に取り入れる

#### 戦略4 生活に密着した公共交通の利用促進策の充実

- 事業7 高齢者、障がい者、免許返納者に対応した利用促進  
ノンステップバスの導入推進など
- 事業8 フリー乗車区間の導入  
コミバスのフリー乗車区間導入など
- 事業9 バス停環境の整備  
バス停への上屋やベンチの設置など

#### 戦略5 多様な交通資源の活用によるサービスの最適化

- 事業10 公共交通ネットワークの最適化【重要】  
既存交通ネットワークの見直しと新たな交通サービスの導入検討など
- 事業11 バス車両の小型化  
小型化によるきめ細かな運行の検証など
- 事業12 デマンドタクシーの導入および検証・見直し  
検証・見直し、導入地域拡大の検討など
- 事業13 貨客混載交通および貨物輸送サービスの導入  
貨客混載交通等の導入可能性の模索など

### 基本目標3 公共交通を『守り』、公共交通を維持する

#### 戦略6 公共交通を維持する連携体制の構築

- 事業14 共通乗車券の導入  
複数の公共交通機関の共通乗車券や一日乗車券の導入検討など
- 事業15 事業を推進する体制づくり  
交通事業者等との定期的な情報交換など

### 令和10年度に向けた目標値

#### 基本目標1

- 1-1 乗車イベントの参加者  
目標値 100人/年 以上
- 1-2 公共交通に関する情報配信（広報紙、HP等）  
目標値 3回/年 以上

#### 基本目標2

- 2-1 路線バスの利用者  
現状値 33,276人/年(91人/日)  
目標値 35,000人/年(96人/日)
- 2-2 コミュニティバスの利用者  
現状値 4,861人/年(11人/日)  
目標値 5,000人/年(14人/日)
- 2-3 まちなか循環バスの利用者  
現状値 3,008人/年(10人/日)  
目標値 4,000人/年(14人/日)
- 2-4 やまだデマンドタクシーの利用者  
現状値 226人/年(登録者 52人)  
目標値 500人/年(登録者100人)
- 2-5 三陸鉄道の利用者  
現状値 65,853人/年(180人/日)  
目標値 70,000人/年(191人/日)

#### 基本目標3

- 3-1 交通事業者との意見交換  
目標値 3回/年 以上
- 3-2 地域公共交通会議による関係者間の意見交換  
目標値 2回/年 以上